

校長室の小窓から・・・

—No. 3— 令和8年5月7日(木) 金光八尾中学校高等学校 校長 松井 祥一

「何から始めればいいのか」を「これならできる」へ

中学・高校時代は「勉強しようと思っても何から手をつけてよいかわからず、時間だけが過ぎていく」という人が多いのではないのでしょうか。試験前になると「やらないや」と思えば思うほど、焦燥感で押しつぶされそうになった経験が私にもあります。

そんな悩みにこたえるべく、中学生、高校1年生全員と高校2・3年生の希望者対象に、放課後学習メンタープログラムが始まりました。放課後や休みの土曜日に年齢の近いメンターが学習のサポートをしてくれます。また、どのように学習計画を立てればよいか、進路の悩みなど、親身に相談にのってくれます。さらに、英検対策や模試対策、



入試対策などのイベントも受講することができますし、今年度導入したスタディサプリのサポートも可能です。学習メンターは単に勉強を教える「講師」とは異なり、自学自習を支え、伴走する存在です。まずは「何から始めればいいのか」を「これならできる！」へチェンジするヒントを探しにしてみてください。

とは言え、些細なことでも自分を变えるのはとても難しいものです。なぜなら、最も長い時間連れ添った相手は自分だからです。人間は「未知の成功」よりも「慣れ親しんだ失敗」の方が安心できる生き物なのかもしれません。

南アフリカでアパルトヘイトを撤廃したネルソン・マンデラ大統領は、「自分を变革するのはとても困難だ。社会を变革するよりずっと難しい。」という言葉を残しています。27年間に及ぶ過酷な獄中生活の中で、「怒り」を「許し」へと变革させたのです。それを成し遂げた秘訣は「私は決して負けない。勝つか、学ぶかのどちらかだ」という彼の名言にヒントがあります。つまり、失敗は次に良くなる方法を考える機会であり、学びだというポジティブな精神です。

変わらない本質と時代ごとの新しい変化のどちらも大切だという「不易と流行」は松尾芭蕉の俳諧精神です。しかし、芭蕉自身「かりにも古人の涎（よだれ）をなむることなかれ」と伝えているように、過去のスタイルを模倣するより、新しく創造し続けることを重要視していたのではないのでしょうか。

学びにゴールはありません。私たちもまた「変化すること」を恐れず、常に新しい創造へと向かっていきたいものです。